

No.3 別紙

1 活動名 松枯れ対策現地現場 視察

2 研修の目的

(1) 本市における課題

本市四賀地区から東山にかけての松林の松枯れは深刻であり、その対処が急がれている。枯れた松が散乱する林、立ち枯れた松が放置されている林を、どう緑の森に転換していくのか、「薬剤空中散布によらない」松枯れ対策を行うためには、あらゆる対策を組み合わせる必要がある。

(2) 研修の必要性 長野県内の松林における松枯れの状況および樹種転換、枯損木伐採等、松枯れ対策の実施状況を視察し、今後の松本における松枯れ対策と森林政策について参考となる事例の調査

(3) 研修項目 研修内容と同じ

3 研修内容

(1) 日時 令和2年7月17日（金）

(2) 会場 松川村（里山長伐期間伐・皆伐更新）～典型的補助金林業の里山整備～（大町市）森林空間活用～理想のモデルとしての荒山林業

(3) 出席者 1名 神津ゆかり

(4) 内容

ア 松川村（里山長伐期間伐・皆伐更新）

イ 典型的補助金林業の里山整備（大町市）森林空間活用

ウ 理想のモデルとしての荒山林業

(5) 成果・所感等

森林所有者から依頼されて「健全な森林」を維持するためのメンテナンス、伐採、間伐、材木、薪やチップなどのバイオマス生産など、「森林」にまつわるあらゆる作業を請け負いながら、50年100年後を見据えたていねいな山づくりを実践している。枝打ち、間伐を繰り返し、木目がこまかく、節の無い、最高品質な木材を作るため、長年の経験とコツの伝承を受け継いでこられた荒山林業さんの山を見せていただきました。

木々の匂い、土の匂い、風が葉をゆらす音、木々のあいまから差す光、そこには森林がもたらす経済活動としての「木材」以外の「楽しみ」も見え隠れしていました。

林業を単なる木材生産ではなく、総合環境産業として位置づければ、やっかいものとなっていた森林が、貴重なSDGs環境施策が実践できる現場になります。

4 政務活動費

(1) 使途項目 研究研修費

(2) 支出額	ガソリン代（往復72km）	2,664円
	ガイド料	4,000円
	合計	6,664円